

附属書5B 減肉の評価区分Ⅱの供用適性評価 — WES2820による評価（規定） —

序文

この附属書は、基準における減肉の評価区分Ⅱの供用適性評価を日本溶接協会規格WES2820「圧力設備の供用適性評価方法-減肉評価」の規定に基づいて行う場合について規定する。日本溶接協会規格WES2820「圧力設備の供用適性評価方法-減肉評価」の規定に関する質問（解釈を含む）は（一社）日本溶接協会によるものとする。なお、本附属書の適用にあつては**本文3.4.3 b)**なお書き^{注)}に留意する必要がある。

注) **本文3.4.3 b)**なお書きを抜粋して以下に示す。

「なお、**附属書5A**又は**附属書5B**の選択については、用いられる係数 (M_t 、 M_s など)、参照応力の定義、塑性崩壊条件の定義及び許容基準の考え方を含めた両附属書に定める評価法の違いや特徴を十分に理解した上で、事業者の責任において判断しなければならない。」

1. 地震荷重以外に対する評価

適用範囲、適用方法、評価判断基準等詳細は日本溶接協会規格WES2820「圧力設備の供用適性評価方法-減肉評価」の評価適用時点(再評価時においては再評価時点)における最新版に基づくこととする。

2. 地震荷重に対する特記事項

2.1. KHKS 0861(2018) 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準(レベル 1)に基づく耐震性能が求められている場合

- 1) 全面減肉評価並びに局部減肉評価においては、圧縮側の耐震設計用許容応力値は、減肉部の残厚みに基づくものとする。
- 2) 局部減肉評価においては KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準(レベル1)に基づく耐震性能が求められている場合は、これに基づく外力をサプリメンタル荷重として与えて耐震性能を満足するか評価する。
- 3) 局部減肉評価における合否判断は、計算される最大のミーゼス応力値が圧縮並びに引張に対するそれぞれの耐震設計用許容応力以内であるものを合格とする。

2.2. KHKS 0862(2018) 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準(レベル 2)に基づく耐震性能が求められている場合

KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準(レベル2)による耐震性能が求められる場合は、その耐震性能を満足するための設計検討時の肉厚に対し、減肉部の最小肉厚が上回っている場合を合格とする。

<参考文献>

- [1] WES2820:2015 圧力設備の供用適性評価方法ー減肉評価、一般社団法人 日本溶接協会
- [2] KHKS0861(2018) 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）、高圧ガス保安協会
- [3] KHKS0862(2018) 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）、高圧ガス保安協会

印刷不可